

ソヴェト統計学の動向

—1954年3月のソヴェト統計学会議にふれて—

足利末男

I 戦後の統計学論争の一應の終結

II ソヴェト統計学の動向

- (1) マルクス主義の古典における統計の研究
- (2) ソヴェト統計学の歴史の研究

I 戦後の統計学論争の一應の終結

われわれは、1948年にはじまる戦後のソヴェトの統計学論争に著しい関心をよせ、その推移を注視してきた。さて、ソヴェトでは、1954年3月16日から26日にわたって、モスクワにおいて、科学アカデミー、中央統計局、連邦大学教育省の三者主催になる「統計学の諸問題にかんする学術会議」が開催された¹⁾。この会議の成果の一つとして注目すべきは、「統計通報」*Вестник статистики* および「経済学の諸問題」*Вопросы Экономики* 誌上で展開されてきた、「統計学の対象と方法」にかんする見解の不一致について検討をし、統計学の規走を明確にしたことである。すなわち、会議において、統計学は次のごとく定義された。

「統計学は、独立の社会科学である。それは、社会

- (3) 統計に課せられた実践的諸問題の研究
- (4) 現代資本主義の分析とブルジョア統計の批判
- (5) 統計理論の個別的・具体的問題の研究

III むすび

的集團現象の量的側面を、その質的側面との分かち難い関係において研究する。それは、場所と時間の具体的な条件のもとにおける社会の発展の法則の量的あらわれを研究する。統計学は、社会的生産の量的側面を、生産力と生産関係との統一において、社会の文化的小よび政治的生活の現象との関係において、研究する。

また統計学は、自然的小よび技術的要因が、社会生活の量的變化に及ぼす影響、ならびに、社会的生産の發展が、社会生活の自然的諸条件に及ぼす影響を、研究する。

統計学の理論的基礎は、史的唯物論とマルクス・レーニン主義経済学である。統計学は、この原理と法則に依據して、具体的な社会集團現象における量的變化を明らかにし、その法則性を解明する」(*Вестник Статистики*, 1954 No. 5. p. 87, *Statistische Praxis*, 1954 Heft 11. S. 160)。

この定義から分かるとおりに、統計学は實質科学と規定され、その理論的基礎は史的唯物論とマルクス・レーニン主義経済学に求められている。こうして、従来の論争には終止符が打たれたようである。ところで、このような会議の成果の上に立って、統計学の内容を具体的に展開し、その體系を構成することは、ソヴェト統計学に課せられた今後の重要な課題であろう。しかしいづれにしても、この統計学会議は、ソヴェト統計学の發展にとって、一つの大劃期をなすものであり、新しい出發點をなすものである、ということができよう。

この会議にいたるまでのソヴェト統計学論争そのものの経過にかんしては、それに直接的に關係のある理論的諸論文の紹介によって、かなりよくわれわれに知らされている²⁾。しかし、かかる論争の過程において、またそ

1) この会議については、*Вестник статистики*, 1954, No. 5 “Обзор научного совещания по вопросам статистики” *Statistische Praxis*, 1954 Heft. 11 “Die Statistik ist eine Gesellschaftswissenschaft” にくわしく報告されている。後者は、オストロヴィチヤノフが、1954年5月28日ソ同盟科学アカデミー議長會議で報告したものを、*Вестник Академии наук СССР* から獨譯したものである。この會議には、760人が参加し、その大部分は、統計学の領域における理論家ならびに實務家であったが、そのほか、経済学者、技術家、数学者、哲学者および醫者が参加している。なお、この會議を司會したのは、アカデミー會員カ・ヴェ・オストロヴィチヤノフである。

この會議の目的は三つである。(1) 統計学の対象と方法にかんする見解の相異を検討して、正しい命題を打ち立てること。(2) 連邦中央統計局教授團で組織された著者集團の「統計の理論」*Теория статистики*、モスコウ経済統計研究所著者集團「統計一般理論教程」*Курс общей теории статистики* 草案、この2冊の統計学教科書の内容の吟味と審議。(3) 現代資本主義の分析とブルジョア統計の批判。

2) 統計学の対象と方法にかんするソヴェトの學者の論文は、統計研究會譯編、「ソヴェトの統計理論」1952、経済統計研究會譯編「ソヴェトの統計理論(II)」

れと平行して、ソヴェト統計学の理論と実際において、また別の努力がなされていることについてはあまり紹介されていないようである。ソヴェト統計学の歴史にとって、劃期的な1954年の「統計學會議」の意義を十分に評價し、その成果を批判的に攝取するためには、統計學論争とともに進められてきた、統計學の論争とは一見無関係に見える他の業績にも目を向け、これらを全體としてみる必要があるであろう。

II ソヴェト統計学の動向

ソヴェト統計學論争は、統計理論の實踐からの立ち遅れを克服するためのものであった。オストロヴィチヤノフは、統計理論の立ち遅れから生じた缺陷について、次のごとく指摘している (*Statistische Praxis*, 1954 Heft 11. S. 157)。「理論統計学の領域における學問的勞作は、社會主義建設のさしせまった問題とはなんの関係もない、抽象的・方法論的テーマに限定されていた。社會的生產物、國民所得、労働者・勤務員・コルホーズ農民の所得、労働生産性、商品賣上高、財政、人口、保健、文化等々のソヴェト統計学のさしせまった問題の研究には、極めて不十分な注意しか向けられなかった」と。

したがって、統計學論争の開始は、同時に、かかる缺陷の克服のはじまりでもあった。「統計通報誌」にのせられた論文を通じて、ソヴェト統計學界の動きをみると、統計學論争と平行して、統計学のかかる缺陷を克服しようとする努力が多面的になされているようである。この多面的な努力は、ほぼ次の5つにまとめることができるであらう。すなわち、(1) マルクス・レーニン主義の古典における統計の研究、(2) ソヴェト統計学の歴史的研究、(3) 統計に課せられた實踐的諸問題の研究、(4) 統計理論の個別的・具體的問題の研究、(5) 現代資本主義の分析とブルジョア統計の批判。

ここでは、われわれの入手し得た限りでの「統計通報」誌の論文を、以上の5つの項目に分類・整理して、ソヴェト統計学の動きについての全面的な理解・把握をするための一助としたい。紙数の制約上個々の論文の内容に立ち入ることができず、また分類において、筆者の獨斷があるかも知れないが、御寛容をお願いする³⁾。

1953、農林統計協會にその主なるものがおさめられている。また、論争の性質・問題点を解説・批判したものとしては、次のものがある。内海庫一郎「統計学の對象と方法に関するソヴェト學界の論争について」、畑村又好・渡邊經彦「經濟學と統計學」(ともに「經濟評論」1953, 7月號), 大橋隆憲「西と東の統計學」京都市統計月報, No. 60.

3) 京都大學經濟學部・調査資料室編「ソヴェト雜

(1) マルクス主義の古典における統計の研究

ソヴェトの統計學者たちは、マルクス・レーニン主義の巨匠達が、統計を重視し、科學的統計学の基礎を置いたことを強調している。そしてその理論的勞作において、かかる巨匠達に學ぼうとしていることはいうまでもない。かかる理論的勞作以外に、マルクス・レーニン主義の巨匠の勞作における統計を研究したものとして、次のものがみられる。

エリ・カシカレヴァ; マルクス・エンゲルスの諸勞作における統計, 1950年, 5號 エリ・カジネツ; ヴェ・イ・レーニンのゼムストヴォ統計の評價, 1951, 4號 エリ・カシカレヴァ; マルクスによる第1インターナショナルにおける全統計労働者の歴史から, 1951, 6號 エリ・カジネツ; ヴェ・イ・レーニンの統計的觀察の客體と單位論, 1952, 5號 テ・コズロフ; ヴェ・イ・レーニンの統計的觀察のプログラム, 形態および方法論, 1952, 4號 テ・コズロフ; ヴェ・イ・レーニンの諸勞作における統計, 1954, 1號

(2) ソヴェト統計学の歴史的研究

「社會科學はいつ、どこで、どうして成立したか。社會科學というものを理解するためには、このような歴史的研究が必要である⁴⁾。社會科學としての統計学の主張は、その歴史的研究を要求する。ソヴェト統計學界では、特にその關心が、自國の統計學史の研究に向けられているようである⁵⁾。

ヴェ・アルシアロヴァ; エム・ヴェ・ロモノソフとロシアの統計, 1950, 5號 エス・オストロウモフ; 統計學者としてのヴェ・エス・ボロシン, 1950, 4號 イ・シクリギン; ソヴェト國家統計の最初の數年, 1950, 6號 テ・コズロフ; 19世紀中葉のロシア統計思想史

誌文獻目録」No. 1 (1954年12月刊)中の「統計通報」誌1950—1953による。この目録作成者、同圖書室城野勇吉氏の理解と協力を得て、以下の記述をなしたものである。この「統計通報」目次は、季刊「統計學」(經濟統計研究會機關誌)にも、資料として掲載されている。なお「統計通報」の主要項目は、*Statistische Praxis* 誌にも簡単に紹介されており、それも参考にした。

4) 高島善哉「社會科學入門」p. 68.

5) ソヴェト統計學史の研究の結果、たとえば、統計的グループ分け、統計表の構成とその適用において、ロシアの統計學者が、西歐のそれよりも數10年先んじていることが明らかにされた。すなわち、從來の統計學史の見解としては、統計表の起源をデンマークの人 Johann Peter Anchersen の *Descriptio statuum cultiorum in tabulis*, Kopenhagen und Leipzig, 1741に置くのが普通であるが(表式統計學 *Tabellenstatistik*), 最初の統計表は、ロシアの統計學がイ・カー・キリロウ (I. K. Kirilow, 1689—1737) の1727年の著書 „*Der blühende Zustand des Allrussischen Reiches*……”に見られる(グラチョフ「統計的グループ分け」1951, ドイツ語譯 S. 17)。

から、1951, 6 號 エス・オストウロフ；統計家としてのカ・イ・アルセニエフ, 1951, 4 號 エス・オストウロフ；ユ・エ・ヤンソン, 19世紀後半のすぐれた統計学者, 1953, 6 號 エリ・ロゾフスキー；ロシア工業統計の歴史から, 1953, 5 號

なお、グラチヨフ、「統計的グループ分け」の第二章は、ロシア統計学史の研究にあてられている。

(3) 統計に課せられた実践的諸問題の研究

この種の研究は、その範囲も広く、数も多い。年別にみることにする。

1950 年

カ・ヴィノグラドフ；建設費の引下げと統計の任務, 4 號 テ・ゴリヤノフ；官廳報告の点検の組織の問題によせて, 2 號 エス・グロズドフ；固定フオンドの償却と再生産, 2 號 ゲ・コギノフ；ゴエルロ計画における統計, 6 號 イ・レヴィティン；灌漑農業統計の諸任務について, 3 號 ア・リヴキン；コルホーズの統計的グループ分けの諸方法について, 3 號 イエ・オムリコヴァ；労働豫備統計の諸問題, 6 號 イ・パスハヴェル；収穫の統計的・経済的研究の諸問題, 2 號 ゲ・ペトロフ；農業生産物買上計算, 5 號 エス・リヤウゾフ；商品流通速度の指数, 3 號 ア・シリン；コルホーズの統計的グループ分けについて, 6 號 デ・シアビロ；木材調達統計の二・三の問題, 5 號 イエ・シエイニン；生産リズムとその測定, 4 號

1951 年

ヤ・ベレニキー；會計報告とバランスにかんする新しい命題, 6 號 ア・ブリヤンスキー；家畜再生産の統計的指標, 4 號 イ・ブトリン；農業電化統計の諸問題, 5 號 エリ・ヴォロダルスキー；戦後5ヶ年計画における社会主義工業の発展, 3 號 エス・ゲニン；工業における労働統計指標の分析にもつと注意せよ, 5 號 エス・グレヴィッチ；戦後第1次5ヶ年計画のプログラムの遂行, 3 號 イ・レヴィティン；新しい灌漑体系への移行と統計の任務, 6 號 エス・メハニク；企業の生産期間の繼續指標の算定と分析の経験, 4 號 ペ・モスクヴィン；社会的生産物の物理的容量指数算定の問題によせて, 2 號 ア・パヴロフ；戦後5ヶ年計画におけるソ同盟の社会主義農業, 3 號 エス・パルティグル；戦後5ヶ年計画におけるソヴェト人民の物質的および文化的な生活水準の向上, 5 號 イ・パスハヴェル；収穫量向上の未利用豫備決定の方法について, 1 號 ペ・ボドヤチフ；物材調査の實施とその結果の点検における缺陷について, 5 號 エス・ポストニコフ；労働者、勤務員ならびにコルホーズ員の家計統計の発展における新しい段階, 6 號 イ・ルイジエフ, ヴェ・シアフランスキー；手間のかかる労働ならびに重労働の機械化計算の二・三の問題, 2 號 エリ・スクヴォルツォフ；ソ同盟國家經濟の固定フオンド計算の二・三の問題, 1 號

1952 年

ヴェ・アニシモフ；償却基準作成にさいしての統計の適用, 2 號 エス・バルンコフ；企業の資金回収指標について, 2 號 ア・ヴィケンチェフ；戦後第1次5ヶ年計画におけるソ同盟の國民所得, 1 號 カ・ヴィノグラドフ；第5次5ヶ年計画における資本建設と資本建設統計の任務, 6 號 エス・ゲニン；比較買却價格での工業總生産高の評価について, 2 號 イ・グレヴィッチ；戦後5ヶ年計画における同盟諸共和國の農業および文化の高揚, 1 號 ア・ドゥミトリエフ；統計報告の整理, 省略および簡素化について, 3 號 ア・エジョフ；第5次5ヶ年計画と工業統計のさしあつての任務, 6 號 カ・エランスキー；1952年度のソ同盟國家豫算, 3 號 デ・ジアク, テ・ティルズバタルト；計算と計算作業の機械化の状態について, 2 號 エム・イリエフスキー；労働力利用指標にかんする問題

によせて, 6 號 イ・レヴィティン；1952年度における果樹栽培調査實施の組織的および方法論的諸問題, 3 號 ペ・モスクヴィン；物的生産部門の分類わけについて, 5 號 エス・パルティグル；商業統計の當面の諸問題, 3 號 イ・ルイショフ；工業と建設における労働の機械化計算の當面の問題, 4 號 ヴェ・スタロフスキー；共産黨第19回大會とソヴェト統計の任務, 5 號

1953 年

ア・ボヤルスキー；畜産業の生産性の統計指標, 4 號 イ・ブリトン；コルホーズにおける電力の生産と消費の計算の諸問題, 3 號 カ・ヴィノグラドフ；建設費引下げの豫備を明らかにし, 利用せよ, 5 號 エス・ゴンチャロフ；コルホーズおよび農業諸機關の統計報告の確實性を高めよ, 2 號 ヴェ・ゴレルキン；木綿織物工業における労働生産性指数の算定方法について, 3 號 ア・ルツェンコ；技術学校における統計専門家の養成を改善せよ, 5 號 エス・リュビモフ；工業企業の總生産高決定の諸問題, 4 號 ヴェ・マニヤキン；農業統計のさしあつての任務, 6 號 エス・パルティグル；ソヴェト商業統計を新しい任務の水準に, 6 號 エス・ポストニコフ；家計調査のための労働者、勤務員およびコルホーズ員家族のサンプリングの方法について, 3 號 イ・ルイショフ；國民經濟に新しい技術導入の統計的研究について, 3 號 エリ・スクヴォルツォフ；ソ同盟の國家豫算, 5 號 エス・スズダリツェフ；第5次5ヶ年計画における運輸統計の諸問題, 2 號

1954 年

エム・バルコフ；未完成品の評價について, 3 號 エム・ボル；ソ同盟の國民所得の計畫バランスについて, 6 號 イ・ブリトン；コルホーズ電化の統計的研究について, 4 號 イ・ブイフシエフ；生産原價分析の方法についての問題によせて, 2 號 デ・ヴァインシエンケル；工業生産原價分析の諸問題, 1 號 ア・ヴィケンティエフ；5ヶ年計画におけるソ同盟の國民所得, 3 號 ペ・ゴンチャレンコ；工業企業の報告の範圍と形式について, 4 號 ア・ドミトリエフ；計算および報告のあらゆる短縮と簡單化のために, 3 號 ヴェ・コステヒン；貸金フオンドにかんする計畫遂行分析の指数方法, 2 號 イ・パスハヴェル；農業作物の収穫率の高さと強固さの比較評價の諸手法について, 6 號 エル・シフマン；幼児死亡率指標計算の方法論について, 4 號 イ・ソセンスキイ；「ビジネス」のための統計, 1 號 エス・ストルミリン；國民福祉測定についての問題によせて, 5 號 エム・テネンバウム；ソヴェト商業統計における抽出調査について, 3 號 ゼ・チェンデシ；工業生産の律動性の統計的測定, 3 號 エム・エイデリマン；國民經濟における資材計算を改善せよ, 2 號

(4) 現代資本主義の分析とブルジョア統計の批判

1950 年

エリ・ポリソフ；成長しつつある經濟恐慌のもとにある資本主義諸國, 1 號 エス・ゴレリク；アメリカの豫算統計における偽造とアメリカ合衆國の労働者の貧困化, 4 號 イ・ザスラヴィン；帝國主義的反動に奉仕するブルジョア經濟統計, 5 號 エリ・リヴォフ；資本主義諸國における戦後の失業, 2 號 ユ・ミニルリン；ブルジョア給與統計における偽造, 6 號

1951 年

エス・ゴリディン；資本主義の全般的危機における失業の増大, 2 號 エス・オストウモロフ；ブルジョア刑事統計の反動的本質, 4 號 エリ・ツィルリン；資本主義諸國における經濟の軍事化と労働者の貧困化の増大, 3 號 ヴェ・チエルメニスキー；労働生産性のアメリカ・ブルジョア統計批判, 6 號

1952 年

ア・ボヤルスキー；イギリスの死亡統計におけるブルジョア辯護者，6 號
 エム・ドブロフ；メロカ帝國主義の戦後の経済的膨脹，4 號
 ベ・ポリヤコフ；戦後における資本主義諸國の農業の衰退，1 號
 エリ・ツイルリン；メロカ合衆國における生活費指數の偽造，2 號

1953 年

エス・バクリン；ブルジョア外國貿易統計の偽謊的性格，1 號 エリ・
 ポリソフ；資本主義諸國における勤勞者の貧困化の強化，2 號

1954 年

エリ・リヴォフ；資本主義諸國における農村勤勞者の貧困化，1 號

なお，ここでは，友邦の統計的分析がなされておることも，あわせて指摘しておかなければならない。

ヴェ・マスレンニコフ；中華人民共和國，1950 年 3 號 エヌ・ソセ
 ンスキー， エリ・ツイルリン；ヨーロッパ人民民主主義諸國におけ
 る社會主義の基礎の建設，1950 年，5 號 ア・パトルウシヨフ；ヨ
 ーロッパ人民民主主義諸國家における農業の高揚，1951，2 號 ゲ
 ルビレシュティン；社會主義の途上にある人民民主主義國ポーランド，
 1951，1 號 エフ・コンスタンチノフ；ヨーロッパ人民民主主義諸
 國の勤勞者の経済と福祉の増大（概観），1953 年，5 號 ア・マル
 トイノフ；中華人民共和國における経済建設の成功，1953 年，6 號
 エフ・コンスタンチノフ；ブルガリア人民の平和的勢力の榮ある成果，
 1954，4 號 カ・クライス；チェコスロヴァキヤにおける経済建設
 の成功，1954，6 號

(5) 統計理論の個別的・具體的問題の研究

以上のような研究を媒介として，それらを一般化し體系化するところに，統計理論の前進が見られる。しかしこの場合にも，さらに理論的な意味での個別的・具體的問題（たとえば，數學を社會現象に適用することが可能であり，合目的な場合，社會現象における量の意味，経済學と統計學の關係など）が，理論的一般化の前に研究される必要がある。この種の研究は比較的少なく，

ベ・ヤストレムスキー；統計科學における平均値の法則，1953 年，6 號
 ベ・ペトロカンスキー；算術平均量の動態分析についての問題によせ
 て，1954 年，6 號

が見られるにすぎない。ただここで，「統計通報」の論文ではないが，かかる特殊研究の文獻として，われわれの

みることのできた，グラチョフの「統計的グループ分け」をあげておく必要がある。著者グラチョフ（H. Г. Грачев）は，ソ同盟科學アカデミー・經濟學研究所の所屬で，統計學において重要な位置をしめる「グループ分け」（分類）の問題を眞正面から取り上げ，經濟理論との關係において研究しいる。理論的進化の方向を示すものとして注目される⁶⁾。

III む す び

すでに述べたように，ソヴェト統計學の前進にとって劃期的な意義を有すると考えられる，1954 年 3 月の「ソヴェト統計學會議」の意義を正しく理解するために，われわれは，かかる會議にいたるまでのソヴェト統計學界の動向を全面的に把握することが必要であると考へ，そのための手懸りとして，「統計通報」誌の論文を系統的に分類し紹介した。若干の参考になれば幸である。

(1955 年 5 月)

6) グラチョフの書物は，原名 *Статистические группы*，で 1951 年國立出版所發行であるが，われわれの見たのは，U. Lange 編集，Schwarz 譯，*Statistische Gruppenbildung*，Verlag die Wirtschaft GmbH, Berlin. 1953 である。獨譯は，9 章 194 頁の書物である。参考までに目次をあげておこう。

§ 1 統計的グループ分けは，ソヴェト統計學の基本的な方法である。
 § 2 指導的なロシアの統計學者の著作における統計的グループ分け（グループ分けという點からみた革命前のロシア統計學史の概説——足利） § 3 レーニン，スターリンは，グループ分けという科學的方法の創始者である。 § 4 代表（平均）値の方法を，科學的に用いたレーニンとスターリン § 5 ソヴェト統計における統計的グループ分けの作成とその使用形式 § 6 計畫實現の分析と工業における未利用資源の發見にさいしての統計的グループ分けの方法の適用 § 7 社會主義農業の研究における統計的グループ分けの適用 § 8 統計的グループ分けの體系 § 9 ブルジョア統計の偽謊の手段としての統計的グループ分けの誤用